高等教育へのソフトランディングのための研究ノート

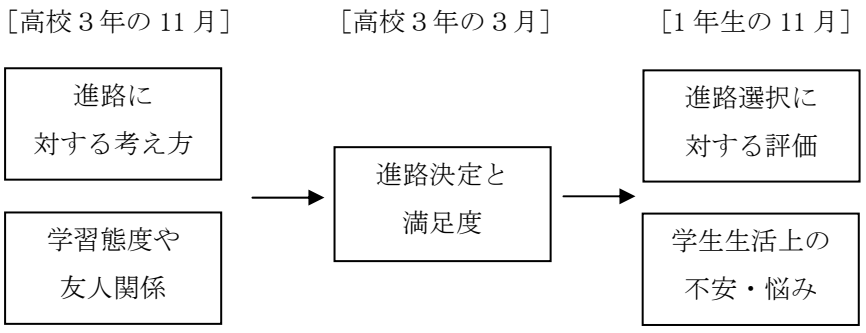
小方　直幸（広島大学）

学生の生活への適応をめぐっては、従来から心理学分野を中心に数多く論じられてきた[1]。ただし、これまでの分析は、どちらかといえば特定の大学の事例の分析や、大学生のみを対象としたものが多かった。分析の枠組み自体は決して新しいものではないし、後述のように入学後の環境等が考慮された分析にも至っていない等の課題があるものの、この小論では、大学だけでなく、短大、専門学校も視野に入れて、高等教育へのソフトランディング（高校からのスムーズな移行）を考えるための基礎的な分析を行う。

今回用いるのは高校３年生の 11 月、同３月、そして卒業後の 11 月という追跡調査データである。追跡調査データの利点は、調査時点から過去を振り返ってもらうのではなく、その時点時点での実態や意識を捉えることができることにあり、現在から過去を再解釈するというバイアスを抑制することが可能である。なお、この度の「高校生の進路についての調査」プロジェクトでは、短期大学や専門学校への進学者が卒業を迎える来年も追跡調査を予定している。そのため、今回は来年以降に行う総合的な分析に向けた、中間報告的な位置づけであることを予め断っておく。

論文の構成は以下の通りである。第１節では、高卒時の進路選択を振り返って各自がどのように考えているかを概観した後、現在の学生生活における不安や悩みについて言及する。第２節では、そうした不安や悩みに代表される進学後の適応－不適応を規定するものは何か、特に高校在学中における個人の特性に着目して考察する。図１に分析の枠組みを簡単に示しておく。

図１　分析の枠組み



1. 進路選択に対する満足度

表１に、高等教育機関に進学した１年生の 11 月時点での調査結果を示した。まず明らかなのは、進路選択に関する不満は進学者よりも就職者で大きい点である。就職者では約３割が「進学の方がよかった」と回答している。ただし進学者でも、２割前後が「進路選択に不満」、４割前

表１　高卒時の進路選択を振り返って（入学後）

(%)

	進学先			進学者計	就職者
	専門学校	短大	大学		
高卒時の進路選択に不満	19.3	23.4	24.7	23.3	36.8
進学先もっと調べるべきだった	35.4	48.1	40.5	40.4	46.2
就職の方がよかった	10.8	12.1	4.9	7.2	28.3

注：1)「とてもあてはまる」と「あてはまる」を合計した割合
　　2)就職者の場合、「就職先をもっと調べるべきだった」、「進学の方がよかった」の値

後が「進学先調べが不十分」と認識している。なお、進学者のうちで「就職の方がよかった」と考える者は、短大、専門学校でやや多く、それぞれ１割程度存在する。

以上は 11 月時点での状況だが、今回の調査では高卒時点（３月）における進路に対する満足度も聞いており、満足度の変容を追跡できる（表２）。何れの進学先でも、７割前後の層が入学前から入学後も進路選択に対して満足しており、一貫して高い満足度を維持している。さらに１割近くは、入学後に「どちらともいえない」「不満」から「満足」へと転換している。このように進学者の満足度は全体的に高いが、２割前後の層が、入学前に「満足」「どちらともいえない」であったにも関わらず、入学後に「不満」に転換している。

表２　進路選択に対する満足度の変容（高卒時の進路選択）

	計		専門学校		短大		大学	
3月　→11月	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)
○　→ ○	1462	67.3	352	72.9	199	69.3	911	65.0
△ or×→ ○	204	9.4	38	7.9	20	7.0	146	10.4
○or△ → ×	449	20.7	86	17.8	60	20.9	303	21.6
×　→ ×	57	2.6	7	1.4	8	2.8	42	3.0
合計	2172	100.0	483	100.0	287	100.0	1402	100.0

注：1)○は満足、△はどちらとも、×は不満

表２で示した○→○を【満足維持型】、△or×→○を【満足転換型】、○or△→×を【不満転換型】、×→×を【不満継続型】、とそれぞれ命名し、それぞれの型の特徴をもう少し考察してみよう。表３は、満足度類型別に、現在の学生生活で感じていることを示したものである。

まず、全体の傾向を整理しておく。何れの進学先でも不安や悩みの最も多いのが、「卒業後の進路」で、短大や大学で特にあてはまる。次に多いのが「やりたいことが見つからない」で、これも短大そして特に大学であてはまる。また、「転学・転部」志向も少なくなく、短大、大学では３割に達する。これに続くのが「授業についていけない」で、進学先を問わず２割以上があてはまると答えている。なお、佐藤（2007）[2]では、出身高校、つまり普通科と専門科の間で転学・転部志向に違いあることが指摘されているが、今回のデータからは確認されなかった。

満足度類型別にみると、予想される通り、ほぼ全ての項目で【満足維持】型、【満足転換】型の不安や悩みが少ない。類型別の差が顕著なのは、「大学・学校を辞めたい」「転学・転部したい」「やりたいことが見つからない」「卒業後の進路に不安」「学校になじめない」の各項目である。【不満継続】型と【不満転換】型では、これらの項目に該当すると考えている者がかなり多い。

表３　満足度類型別にみた学生生活で感じていること

A. 専門学校 (%)

	計	【満足維持】	【満足転換】	【不満転換】	【不満継続】
やりたいことが見つからない****	20.0	12.3	21.1	47.4	57.1
学校になじめない****	8.3	4.6	2.6	24.4	28.6
授業についていけない****	20.3	16.2	18.4	37.2	28.6
経済的に勉強を続けることが難しい***	8.7	6.3	10.5	18.6	0.0
卒業後の進路に不安****	52.8	47.4	52.6	72.9	83.3
いまの大学・学校を辞めたい****	8.1	3.4	2.6	27.1	42.9
転学・転部したい****	18.3	11.4	18.9	41.9	71.4
編入したい***	8.4	6.3	2.8	17.6	28.6

B. 短大 (%)

	計	【満足維持】	【満足転換】	【不満転換】	【不満継続】
やりたいことが見つからない****	34.5	25.1	50.0	60.0	37.5
学校になじめない	13.6	10.6	20.0	20.0	25.0
授業についていけない***	21.7	16.2	30.0	35.0	37.5
経済的に勉強を続けることが難しい***	5.2	4.0	0.0	8.5	25.0
卒業後の進路に不安*	69.8	65.5	70.0	81.7	87.5
いまの大学・学校を辞めたい****	11.6	5.6	5.0	30.0	42.9
転学・転部したい****	28.0	18.1	40.0	51.7	71.4
編入したい**	26.6	21.1	40.0	38.3	42.9

C. 大学 (%)

	計	【満足維持】	【満足転換】	【不満転換】	【不満継続】
やりたいことが見つからない****	42.9	33.9	45.9	65.8	65.9
学校になじめない****	16.5	11.0	17.8	28.8	41.5
授業についていけない	26.6	24.7	27.4	31.7	28.6
経済的に勉強を続けることが難しい***	7.7	6.6	5.5	10.2	19.0
卒業後の進路に不安****	59.3	53.3	58.6	75.3	78.0
いまの大学・学校を辞めたい****	9.7	2.9	6.2	27.6	42.9
転学・転部したい****	30.0	16.7	34.2	61.7	73.8

注：1)表中の数値は、各項目に「とてもあてはまる」または「あてはまる」と回答した割合
　　2)*10%、**5%、***1%、****0.1%で有意

ところで、こうした不安や悩みは、どこまで学生生活面に実質的な影響を及ぼしているのだろうか。実際の生活面の変化として顕在化するような不安や悩みは、他の不安や悩みに比べてより深刻なものと考えられるからである。学校への出席日数と授業への出席率（附表１）、成績（附表２）、学習やアルバイトといった生活時間（附表３）のそれぞれについて確認してみよう。

まず、出席日数に統計的に有意な影響を及ぼしているのは、「やりたいことが見つからない」「大学・学校を辞めたい」「転学・転部したい」の項目だった。授業の出席率には多くの不安や悩みの項目が統計的に有意な影響を及ぼしている。もっとも、１年次ということもあってか、出席率は不安や悩みを抱えている層でも相当に高く、この傾向は特に専門学校や短大で顕著である。ただし、「学校になじめない」「大学・学校を辞めたい」と考えている層では、そうでない層と比べて出席率の差が大きい。

続いて成績については、当然ながら「授業についていけない」ことが成績の低さに繋がっている。ただし専門学校では、統計的に有意な差があったのは、この項目だけである。これに対して短大や大学では、他の項目も影響しており、特に「大学・学部を辞めたい」「学校になじめない」と考えている層では、成績が低い傾向にある。

最後に、授業の準備・復習や授業以外の学習時間への影響は、特に大学で顕著である。短大、

専門学校では２年間というタイトスケデュールのためか、大学ほど顕著な相違が現れていない。大学では、特に「学校になじめない」「大学・学校を辞めたい」と思っている者ほど、学習時間が少ない。サークル・クラブ活動やアルバイト・仕事の時間への影響は部分的だが、不安や悩みがある層ほどサークル・クラブ活動への参加時間が短く、逆にアルバイト・仕事に費やす時間が長くなっている。つまり、これらの不安や悩みは、学習時間、サークル・クラブ活動の時間も含めて、大学・学校に関わる領域での生活時間を減少させるように作用している。

2. 不安や悩みを規定する要因

前節で扱った不安や悩みに至る要因には、大きく分けて２つが考えられる。１つは、進学時点で予め個人が持っていた、つまり高校時代の特性である。もう１つは、進学後の環境や経験に基づくものである。今回の質問票では、後者よりも前者の情報が充実している。そこで、以下の考察は不安や悩みの規定要因の全貌を明らかにできているわけではないが、高校時代の個人の特性に着目する。具体的には、高校３年生の 11 月時点の調査に基づいて、「進学行動規定」変数として以下の４つを作成した。

第１に、問９のA項目「自分に何が向いているのか、まだわからない」とE項目「自分がフリーターのような生き方をするのも悪くない」とを用いて、２～８までの値をとる【将来キャリア】変数を作成した[3]。キャリアの見通しが最もない者が２、最もある者が８という値をとる。

第２に、問 13 のC項目「勉強してみたい分野がみつかったから」及びJ項目「まだ就職したくないから」を用いて、3 段階からなる【進学目的】変数を作成した[4]。明確な学習目的がなく単に就職を先のばしするために進学した者を１、学びたいことが明確になって進学した者を３、両者の中間を２とした。

第３に、問 31 の「学校の授業の勉強（高校１年生のころ)」と「塾や受験勉強のための勉強（高校３年生の調査時点)」とを用いて、３段階からなる【学習習慣】変数を作成した[5]。高校１年のころと調査時点（３年）のトータルでみた場合に、勉強時間を費やしていない者を１、勉強時間を多く費やしている者を３、両者の中間を２とした。

第４に、問 30 の親しい友人の数（高校入学前の友達、高校の友達、その他）を用いて、３～９までの値をとる【交友】変数を作成した[6]。友達の数が最も少ない者が３、最も多い者が９という値をとる。

表４は、４つの変数への回答状況を進学先別に示したものである。３段階になっている【進学目的】【学習習慣】変数を除くその他の２つの変数については、３段階に変数を再定義した値を用いている。即ち【将来キャリア】は２～４を「不明確」、５から６を「どちらでもない」、７～８を「明確」、【交友】は３～５を「少ない」、６～８を「どちらでもない」、９を「多い」と再定義した。

表から明らかなように、専門学校及び短大進学者と大学進学者との間で傾向が異なる。【将来キャリア】、【進学目的】は前者ほど明確であり、【学習習慣】は後者ほど身についている。これらの変数が進学後の不安や悩みとどのように関わっているかは後ほど分析するが、仮に何れの変

表４　進学先別にみた進学行動規定変数

A.【将来キャリア】**				(%)
	合計	専門学校	短大	大学
(N)	(2190)	(488)	(291)	(1411)
不明確	11.2	9.2	11.3	11.8
↓	57.4	53.5	55.0	59.2
明確	31.5	37.3	33.7	29.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0
B.【進学目的】****				(%)
	合計	専門学校	短大	大学
(N)	(2173)	(481)	(287)	(1405)
不明確	10.2	4.8	6.6	12.7
↓	26.6	24.3	24.7	27.7
明確	63.3	70.9	68.6	59.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0
C.【学習習慣】****				(%)
	合計	専門学校	短大	大学
(N)	(2188)	(488)	(290)	(1410)
ない	48.6	71.5	62.4	37.9
↓	32.9	19.5	29.3	38.3
ある	18.5	9.0	8.3	23.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0
D.【交友】				(%)
	合計	専門学校	短大	大学
(N)	(2187)	(487)	(290)	(1410)
少ない	4.0	4.3	3.1	4.1
↓	52.0	48.0	50.0	53.8
多い	43.9	47.6	46.9	42.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注:**5%、****0.1%で有意

数も重要だと考えるならば、専門学校、短大進学者については、進学モチベーションを土台として、進学後にいかに学習習慣に結合させていくかが重要となる。逆に大学進学者については、進学準備のために学習習慣は身についているので、それを将来の方向性や学習関心にいかに結合させていくかが重要となる。なお、【交友】については、大学進学者で友達の数が若干少ない傾向にあるが、統計的には有意でなかった。

表５には、４つの変数間の相関を進学先別に示した。変数間の関係は進学先によって異なる。まず、【将来キャリア】と【進学目的】との間には、何れの進学先でも正の有意な相関が認められる。ところが専門学校進学者では、【学習習慣】と【将来キャリア】【進学目的】との関係は明確でなく、進学モチベーションと学習行動とは連動していない。また、短大や大学進学者では【交友】が【将来キャリア】【進学目的】と有意な正の相関を持つが、専門学校進学者はそうではない。短大や大学進学者の場合には、友達との関係が自身の将来像や進学目的の明確化に少なからず作用していると考えられる[7]。

以下では、進学後の不安や悩みの中でも、実際の行動面にまで反映されるものとして、「学校になじめない」「大学・学校を辞めたい」「転学・転部したい」の３項目に着目し、これらが【将来キャリア】【進学目的】【学習習慣】【交友】の４つの変数とどのような関係にあるかを分析する。具体的には、「学校になじめない」「大学・学校を辞めたい」「転学・転部したい」に対して、

表５　進学先別にみた進学行動規定変数の関係

A. 専門学校

	将来キャリア	進学目的	学習習慣	交友
将来キャリア		0.24*	0.06	0.03
進学目的			0.01	0.09
学習習慣				−0.01
交友				

B. 短大

	将来キャリア	進学目的	学習習慣	交友
将来キャリア		0.37*	0.09	0.16*
進学目的			0.11	0.13*
学習習慣				0.04
交友				

C. 大学

	将来キャリア	進学目的	学習習慣	交友
将来キャリア		0.25*	0.10*	0.12*
進学目的			0.11*	0.09*
学習習慣				−0.02
交友				

注：*5%以上で有意

表６　「進学不適応」変数の規定要因

	専門学校		短大		大学	
第2志望以下	0.182	****	0.206	****	0.191	****
将来キャリア	−0.168	****	−0.219	****	−0.100	****
進学目的	−0.075		−0.115	*	−0.068	**
学習習慣	−0.032		−0.025		−0.109	****
交友	−0.104	**	−0.123	**	−0.084	****
調整済みR2乗	0.08		0.14		0.07	
F値	9.04	****	9.80	****	22.47	****

注：1）志望順位は「第一志望」を基準としたダミー変数

「全くあてはまならい」を１、「あてはまらない」を２、「あてはまる」を３、「とてもあてはまる」を４とし、それぞれの変数に対する回答を合計した合成変数（「進学不適応」変数）を作成し独立変数とした。他方で従属変数には、先の４変数に、進学先が第一志望であったか否かのダミー変数を加えた５つの変数を設定した。表６は回帰分析の結果である（値は偏回帰係数）。

まず明らかなのは、第一志望の機関への進学ができなかった場合に、進学不適応が高まるという点である。因みに、第一志望で進学した者は、専門学校 87%、短大 78%、大学 65%であった。また、志望順位を考慮してもなお、残りの４つの変数が統計的にも有意に進学不適応を規定している。まず【将来キャリア】は進学先を問わず有意であり、将来展望を明確に持って進学した者ほど、不適応を起こしにくい。専門学校については有意でないものの、【進学目的】も進学不適応を規定しており、学びたい分野が明確で就職を先のばしするために進学していない者ほど、不適応になりにくい。将来のキャリアにしろ、学習分野にしろ、進学の動機が明確にある者ほど不適応を起こしにくいというのは、当然の帰結であろう。これに対して、【学習習慣】は大学進学者に対してのみ有意であり、高校時代に勉強時間に多くを費やした者ほど、不適応になりにくい。最後に、【交友】は進学先を問わず有意に影響している。そして、進学するまでに親しい友達が

沢山いる者ほど、不適応になりにくい。これには、友人とのやりとりを経由した進路選択ができている、進学後も進学以前の友人に相談等ができる、対人関係構築力が備わっており進学後も友達ができている、等の理由が考えられる。

3. まとめにかえて

今回の最新の調査は進学後まだ８か月後の段階であり、今後の追跡調査の結果を待って、総合的に結論は下される必要がある。ただ少なくとも１年次の段階では、多くの高等教育進学者は高卒時の進路選択に満足して学生生活を送っている。進学者のコア層は【満足維持】型で、これに【満足転換】型を加えると、４人に３人になる。その意味では、今回のデータは、ユニバーサル段階を迎えようとしている我が国の高校から高等教育への移行が、比較的スムーズに行われていることを示している。

もちろん、残りの４人に１人は進路に何らかの不満を持っていて、この層では「学校になじめない」「大学・学校を辞めたい」といった不適応を起こしている者も少なくない。必ずしもまだ大きな格差には至っていないものの、適応層と比べた場合、授業への出席率や成績の低下という形での影響も現れている。

こうした進学後の不適応は、第一志望での進学でないことや、友達が少ないことにも起因しているが、将来のキャリアや学びたい分野の不明確さなど、いわゆる曖昧進学も背景になっている。この結果を文字通り受け止めるならば、明確なモチベーションを持って進学するよう、高校の進路指導をさらに充実させるべきであるとか、この層は進学過剰の現れであって、高等教育進学率を縮小すべきである、というインプリケーションが導かれるかもしれない。

しかし、曖昧な進学を行っている層は、いつの時代にも一定の割合で存在していたと見る方が、むしろ妥当かもしれない。もちろんこの点は、過去のデータを発掘して実証してみる必要があることはいうまでもないが、４人に３人が高等教育に進学するという文脈の変化を過大視して、進路指導徹底論や教育過剰論を持ち出すことも早計だろう。むしろ、世界的に見ても、仕事経験のない若者が多い我が国の高等教育進学者層の全てに[8]、明確な学習目的を持て、明確なキャリア展望を持てという方が、よほど無謀な要求ともいえる。

この事実はまた、我が国では若年期に高等教育への進学機会を逃すと、年齢を経た後に再参入することが困難であることを示している。近いうちに大きな構造変動が生じないと仮定するならば、曖昧層に対しても進学機会を保障するという立場は重要である。こうした層を受け入れるためには、近年取組が進展している初年次教育やキャリア教育の実践に加えて、入学時に専門が決定する仕組みの見直しや、転学・転部がスムーズに行えるシステムの構築など、学生の流動化を前提とした受け皿の整備も必要になってこよう。今の大学の学士課程は、外見は総合デパート型でも中身は専門店型、囲い込み型になっている。店と店との垣根が低く自由に行き来できる巨大モール型も一考の余地がある。

1 例えば、安達智子、1999「理科系大学1年生の大学選択動機と入学後の適応について」『進路指導研究』19(2)、日本進路指導学会、22-29頁、水間玲子・溝上慎一、2001「大学生の適応と自己の世界－自己評価とそれを規定する自己」溝上慎一編『大学生の自己と生き方』、ナカニシヤ出版、19-49頁、白石義郎、2003「新入生の大学への適応」武内清編『キャンパスの今』、玉川大学出版部、106-117頁など。

2 佐藤香、2007、「専門学科からの進学」『IDE』No.489、IDE大学協会、51-55頁。

3 「自分に何が向いているのか、まだわからない」（1「強くそう思う」、2「そう思う」、3「そうは思わない」、4「全くそう思わない」）に対する回答と、「自分がフリーターのような生き方をするのも悪くない」（1「強くそう思う」、2「そう思う」、3「そうは思わない」、4「全くそう思わない」）に対する回答とを足し合わせた合成変数を作成した。

4 「勉強してみたい分野がみつかったから」に「とてもあてはまる」と回答した者と、「あてはまる」と回答し、かつ「まだ就職したくないから」に「全くあてはまらない」「あてはまらない」と回答した者を3、「勉強してみたい分野がみつかったから」に「あてはまる」と回答し、かつ「まだ就職したくないから」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した者と、「勉強してみたい分野がみつかったから」に「あてはまらない」と回答し、かつ「まだ就職したくないから」に「全くあてはまらない」「あてはまらない」と回答した者を2、「勉強してみたい分野がみつかったから」に「あてはまらない」と回答し、かつ「まだ就職したくないから」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した者と、「勉強してみたい分野がみつかったから」に「全くあてはまらない」と回答した者を1、とした。

5 「学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」に「とても多くの時間を使った」と回答し、かつ「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」に「とても多くの時間を使っている」「やや多くの時間を使っている」と回答した者と、学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」に「やや多くの時間を使った」と回答し、かつ「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」に「とても多くの時間を使っている」と回答した者を3、「学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」に「とても多くの時間を使った」と回答し、かつ「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」に「あまり時間を使っていない」と回答した者と、学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」に「やや多くの時間を使った」と回答し、かつ「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」に「やや多くの時間を使っている」「あまり時間を使っていない」と回答した者と、学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」に「あまり多くの時間を使わなかった」と回答し、かつ「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」に「とても多くの時間を使っている」「やや多くの時間を使っている」と回答した者を2、「学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」に「あまり時間を使わなかった」と回答し、かつ「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」に「あまり時間を使っていない」と回答した者と、「学校の授業の勉強（高校1年生のころ）」と「塾や受験勉強のための勉強（調査時点）」の何れか、または双方に「ほとんど時間を使わなかった」と回答した者を1とした。

6 「高校入学前からの友達」「高校の友達」「その他の友達」（それぞれ1「いない」、2「少しいる」、3「たくさんいる」）に対する回答を足し合わせた合成変数を作成した。

7 これら4変数と両親の学歴、職業、父親の所得との関係を学歴別に検討したところ、必ずしも統計的に有意な差があるとまでは言い切れないものの、以下の傾向が確認された。まず学歴との関係では、【学習習慣】について、短大進学者、大学進学者の場合に対応関係が認められ、高卒以下では短大卒以上と比べた場合、【学習習慣】が身についていない者が多くなっている。また、父親の所得との関係では、専門学校進学者と大学進学者の場合は、年収が高い家庭ほど【進学目的】が明確な者が、また短大進学者の場合には、年収が高い家庭ほど【学習習慣】が身についている者が多くなっている。

8 H. Schomburg and U. Teichler, 2006, *Higher Education and Graduate Employment in Europe*, Springer.

＜附表＞

附表１　不安や悩みの学生生活への影響①

	登校日（日）			授業出席率（割）		
	そう思う	思わない		そう思う	思わない	
専門学校						
やりたいことが見つからない	4.9	5.1	**	9.1	9.7	****
学校になじめない				9.0	9.6	****
授業についていけない				9.3	9.6	****
経済的に勉強継続が困難				9.3	9.6	**
卒業後の進路に不安				9.4	9.7	****
いまの大学・学校を辞めたい	4.8	5.0	**	8.4	9.7	****
転学・転部したい				9.1	9.7	****
編入したい				9.2	9.6	***
短大						
やりたいことが見つからない				9.1	9.6	***
学校になじめない				8.8	9.5	****
卒業後の進路に不安				9.3	9.6	**
いまの大学・学校を辞めたい	4.9	5.2	***	8.7	9.5	****
転学・転部したい				9.1	9.5	***
編入したい						
大学						
やりたいことが見つからない	5.0	5.1	***	8.9	9.2	****
学校になじめない				8.6	9.2	****
授業についていけない				8.8	9.2	****
経済的に勉強継続が困難				8.8	9.1	**
卒業後の進路に不安				9.0	9.2	****
いまの大学・学校を辞めたい	4.9	5.1	***	8.4	9.2	****
転学・転部したい	5.0	5.1	***	8.8	9.2	****

附表２　不安や悩みの学生生活への影響②

	優の割合			可の割合		
	そう思う	思わない		そう思う	思わない	
専門学校						
授業についていけない	4.3	5.2	**	3.1	1.9	***
短大						
やりたいことが見つからない				2.3	1.5	***
学校になじめない	4.3	5.4	**			
授業についていけない	3.8	5.6	****	2.8	1.5	****
いまの大学・学校を辞めたい	3.9	5.5	***	3.2	1.6	****
転学・転部したい	4.4	5.6	***	2.2	1.6	**
大学						
やりたいことが見つからない	4.4	5.0	****	2.4	1.9	****
学校になじめない				2.6	2.0	****
授業についていけない	3.8	5.0	****	2.8	1.8	****
経済的に勉強継続が困難				2.6	2.1	**
いまの大学・学校を辞めたい	4.0	4.8	***	2.7	2.1	***
転学・転部したい	4.5	4.8	**			

注：**5%、***1%、****0.1%

附表３　不安や悩みの学生生活への影響③

（時間）

	授業の準備・復習			授業以外の学習			サークル・クラブ活動			アルバイト・仕事		
	そう思う	思わない		そう思う	思わない		そう思う	思わない		そう思う	思わない	
専門学校												
学校になじめない	7.3	9.7	**									
卒業後の進路に不安				5.8	4.7	***						
いまの大学・学校を辞めたい							3.0	3.9	**			
編入したい	11.7	9.2	**									
短大												
やりたいことが見つからない										12.8	10.8	**
授業についていけない	7.8	9.4	**									
卒業後の進路に不安	8.4	10.7	****	4.7	5.7	**						
編入したい				5.7	4.8	**						
大学												
やりたいことが見つからない	8.7	9.8	****	5.2	6.1	****	8.0	9.5	****	13.7	12.1	***
学校になじめない	8.1	9.6	****				7.5	9.1	***	14.0	12.5	**
授業についていけない	8.7	9.6	***	5.3	5.9	**						
経済的に勉強継続が困難				6.5	5.7	**						
卒業後の進路に不安	9.0	9.8	***									
いまの大学・学校を辞めたい	7.9	9.5	****									
転学・転部したい	8.6	9.6	****				8.1	9.1	**	13.9	12.3	***

注：**5%、***1%、****0.1%